婦人

〝婦人教室や行事などで地域の問題を深める〟

各団体と連けい長期計画で

近ごろ、はやりことばのように新生活運動が話題をにぎわして居るが、大ていの団体では相かわらず生活改善の項目を並べ、通り一遍の申合せをしたり、刷物をくばったりして居るが、一向に実績が挙がつて来ない。

では、一体どのような方法でやったらよいか。

新生活運動と婦人団体

活運動は先ずその立場と目標をきめることであろう。

1. 団体の民主的運営により、生活意識を高め家庭婦人としての資質の向上をはかる。
2. 家庭生活の改善と合理化を通して明るい家庭を建設する。
3. よりよい地域社会の建設に協力する。
4. 他団体機関と緊密な連けいを図つてその活動を効果的にする。

◇その方法

1. 動機づけ各地域に於ける問題点について話合つたり見学や映画等で研究し合つてその意欲を高めること。
2. 実態調査イ、地区の情況分析部落の特長、地域の人々の状態を知る。
3. 問題決定イ、多くの問題の中から最も多くの人に影響を与える問題を選ぶ。ロ、改善を出来るかどうかを検討する。
4. 計画立案イ、幽皆を明らかにする。ロ、実施計画期間をきめる。（予算計画例えば貯金、電灯料金、融資、副業、内職等を研究し資金を作つて計画化する。）
5. 指導者の選定会員の中から見出し他団体の協力を求める。
6. 実施計画期間を通じ努力すべき点を明らかにする。
7. 問題解決以後の発展について考えておく。
8. 指導者協力者の意見をきく。

◇婦人教室や行事などで地域の問題を深める

◇各部落の推進状況の発表会を行う。

○町村の役員が各部落の会合に時々出席して協力し、困難点の打開に適当な対策をとる。

○町村婦人会のコーラスグループ、婦人教室のリキュラムの中に各部落の歌の練習を取り入れる。

○町村婦人会の会報、各部落の推進状況の報告を行い、それに基づいて話合いを研究する。

○他部落の会合に出席する。

○各部落の推進状況の発表会を行う。

○町村の役員が各部落の会合に時々出席して協力し、困難点の打開に適当な対策をとる。

○町村婦人会のコーラスグループ、婦人教室のリキュラムの中に各部落の問題研究が深まり実践をすすめる様なものをとり入れる。

6. 評価反省過程に於ける批評調査を行うと共に、実践の報告会員の評価反省をして次の実践活動の参考にする。

◎推進組織

市は分館、各村（部落）に至る迄、新生活運動推進のための委員師・保健婦・栄養士・福祉司等。

市、諸機関団体との連絡（市当局・学校・公民館・青年団等）

5. 運動展開年度毎に具体的な月別計画表を作つて実践して行く。

この場合部落活動が中心となることが多いが部落活動を活潑にするために次の点を考慮したい。

○町村の会合の場合、各部落の推進状況の報告

市の国保で発表八日

長男・長女が圧倒的

市赤ちゃんコンクール五十五名を表彰

優良児は俸給生活者に多い

幼児や学童が、ますます栄養がよい水ボウソウの時期ボウソウのできていることは、この病気は水ボウソウのうつるときに、ちょうどものや、おもちゃにふれても感染する。伝染力が強く家庭内で一人でもこれにかかゆると他の子供にも伝染する。とくべつの治療法がないので患者は安静である。この病気は水ボウソウのうつるときに注意すること。

しつたときはホーサン軟膏や、ペニシリン軟膏をぬるとよい。またのどが痛むときはしげきのない薬を与える。

目標に達するのである。

例えば小倉西部婦人会が終戦後遠早く消滅した往時を偲ぶ郷土の建設（今日ようやく持てはやされて来た欲と盲の居ない何ぞくり）に手をつけ凡ゆる困難と戦い乍ら協力一致の持ち活動によつて市のモデルケースと云わる迄に成した例などは正に模範的である。（社会教育課）

伝染力強い水ボウソウ

―安静と保温が大切―

結核

結核になつたのは、早期に発見されて治療がなされること。

① 集団検診などで治療する全般的な結核の発見である。

② パスキストマイなどの新しい薬ができたこと。

③ 結核の外科的な治療が進歩したこと。

④ 健康保険、医療扶助などで医療を受けられる。

⑤ 一般の人に結核に対する適生知識が普及されたこと。

などが挙げられる。

このように医学の進歩や新薬の発見などによつて死亡は減つていないのに患者は増えているというのは、どういうわけであろうか。

本市の場合では二十九年、五百四十名、三十年、六百四十名（外に小倉、金津百六十六名）と、やはり増えている。

① 結核に対する全般的な知識が不足である。

② ツベルクリン反応やBCGの予防注射を受けない人がまだ相当多くある。

③ 医師が結核であることを本人や家族に知らせない場合がある。

④ 本人や家族が結核であることを他人にかくしていること。

⑤ 患者の痰の処理や衣類、寝具などの消毒をやらない。

⑥ 患者が子守をしている。

⑦ 患者の痰の処理や衣類、寝具などの消毒をやらない。

⑧ 患者が子守をしている。

結核で死ぬ人はすくなくなつたが、患者は増えている。これは最近の傾向である。又は注意を計って見られる現象である。

以前は全国統計で死亡率の一位は結核であつた。が最近は脳溢血、出血、循環器疾患、癌に次いで第四位に下つてきた。

結核で死ぬ人がすくなくなつたのは、やはり治療法が進歩したことと、栄養のよくとれるようになつたことが原因として考えられる。

① 結核に対する全般的な知識が不足である。

② ツベルクリン反応やBCGの予防注射を受けない人がまだ相当多くある。

③ 医師が結核であることを本人や家族に知らせない場合がある。

④ 本人や家族が結核であることを他人にかくしていること。

⑤ 患者の痰の処理や衣類、寝具などの消毒をやらない。

⑥ 患者が子守をしている。

他人と普通に接触している。

これらのことが挙げられる。

1. 睡眠を充分にとる。
2. 栄養を充分にとる。
3. 過労を避ける。

など規則正しい生活をすることが大切である。

この他大事なことは、結核に対して支出する医療費は年に五百八十五万円（三年度）で、医療費総額の一六％に当つている。早いうち治療すれば完全に癒えることは、現代の医学や統計が証明している。

健康診断をして発病防止をしてあつたならば、ツベルクリン反応が陽性の人は結核菌を体内にもつている。

抵の人が結核菌を体内に持つているが、発病の原因となつている。

結核にかからないようにするためには、

1. 睡眠を充分にとる。
2. 栄養を充分にとる。
3. 過労を避ける。

など規則正しい生活をすることが大切である。

この他大事なことは、結核に対して支出する医療費は年に五百八十五万円（三年度）で、医療費総額の一六％に当つている。早いうち治療すれば完全に癒えることは、現代の医学や統計が証明している。

健康診断をして発病防止をしてあつたならば、ツベルクリン反応が陽性の人は結核菌を体内にもつている。

抵の人が結核菌を体内に持つているが、発病の原因となつている。